

## 調査結果概要

### (1) ジュゴンと漁業との共生に向けた取組

#### 1) 漁業者との車座会議(平成16年度～)

過年度業務から継続し、本業務で明らかになっている沖縄北部におけるジュゴンの生息地を活動場所とする漁業協同組合関係者を対象に、ジュゴンの目撃情報や周辺海域の状況の情報収集を目的として、車座会議を実施した。

(各漁協の車座会議の開催日)

- 名護漁協汀間支部 平成29年12月10日(日)
- 羽地漁協 平成29年12月11日(月)
- 今帰仁漁協 平成29年12月12日(火)



調査対象地域の主要漁港と漁業協同組合

#### ① 漁業者との車座会議の開催(名護漁協汀間支部)

場 所： 名護漁協汀間支部

日 時： 平成29年12月10日(日) 12:00～13:00

参 加 者：名護漁協組合員

主な意見交換内容：

■漁業とジュゴンとの共存

- ・嘉陽では喰み跡が多く見つかっているが、実際にジュゴンを見たことはない。長年調査に参加しているので、一度は実際に野生のジュゴンを見てみたい。臆病な動物だと思うので、怖がらせないように気をつけたい。

② 漁業者との車座会議の開催(羽地漁協)

場 所：マリン亭

日 時：平成29年12月11日(月)17:00~19:00

参 加 者：羽地漁協組合員

主な意見交換内容：

■調査ポイントの検討

- ・調査開始時から屋我地では喰み跡が少ない。周辺の日撃情報などを参考に、調査地点の再検討を行う方がいい。

③ 漁業者との車座会議の開催(今帰仁漁協)

場 所：今帰仁漁業協同組合

日 時：平成29年12月12日(火)、11:00~12:00

参 加 者：今帰仁漁協組合員

主な意見交換内容：

■ジュゴンの保護区について

- ・喰み跡のモニタリング調査を継続してきて、周辺にジュゴンが生息していることはわかっている。保全のためには保護区を設置する必要がある。
- ・ジュゴンもホエールウォッチングのように観光資源として活用できるなら保護する意味がある。

## 2) 喰み跡モニタリング調査の実施(調査対象 3 海域)

これまでの調査で明らかになっている、ジュゴンが餌場として利用する頻度が高い以下の3海域を対象として、漁業者による喰み跡モニタリング調査を実施した。

各海域と調査を担当する漁協は以下の通りである。

- 古宇利海域 (今帰仁漁業協同組合)
- 済井出海域 (羽地漁業協同組合)
- 嘉陽海域 (名護漁業協同組合汀間支部)



モニタリング調査海域の位置

以下に各海域、漁協ごとの調査結果の概要を示す。

### ① 喰み跡モニタリング調査の実施(今帰仁漁協)

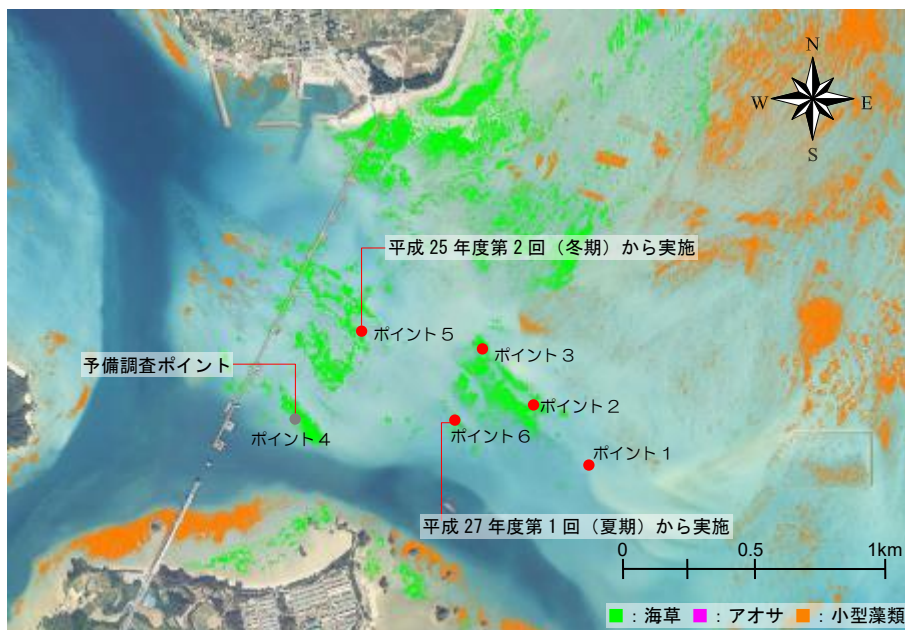
車座会議での漁協組合長の発案により平成20年度から開始した「漁業者によるジュゴンの喰み跡のモニタリング調査」を平成29年度も実施した。昨年度同様に今帰仁漁協、名護漁協汀間支部、羽地漁協の3漁協で、各漁協の漁業者がモニタリングのマニュアルに従いながらモニタリング調査を行った。

日時 : 平成29年9月25日(月)(第1回(夏期))  
平成29年12月22日(金)(第2回(冬期))

場所 : 古宇利海域(ポイント2,3,5,6)

**調査結果：**

- ・海草藻場の分布状況の変化から、ポイント1を廃止し、新たにポイント6を設置した。
- ・ポイント2、3、5は海草藻場の分布状況に変化が生じたことから、平成26年度調査の場所から各ポイントで50-100mほど移動した。
- ・夏期調査では調査ポイント2、6で喰み跡が確認された。
- ・冬期調査では喰み跡は確認されなかった。



※藻場分布図：環境省「ジュゴンと藻場の広域的調査（平成13年度～）」画像解析による。図上藻場が無い場所でも、実際の調査地点では藻場が発達している。

**古宇利海域のモニタリング調査地点**

**今帰仁漁協結果概要(平成29年度)**

調査ポイント	第1回(夏期)		第2回(冬期)	
	平成29年9月25日(月)		平成29年12月22日(金)	
	喰み跡 (本)	喰み跡密集箇所 (箇所)	喰み跡 (本)	喰み跡密集箇所 (箇所)
2	0	0	0	0
3	0	0	0	0
5	0	0	0	0
6	0	0	0	0

※調査ポイント5は、予備調査ポイントとして設定していたが、平成25年度第2回(冬期)から調査を実施。

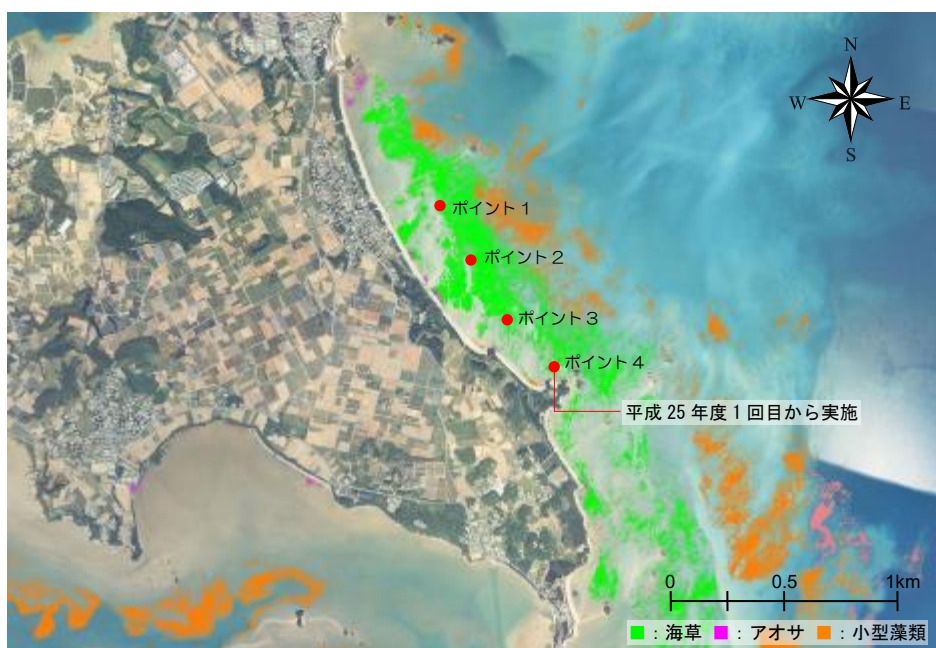
## ② 喰み跡モニタリング調査の実施(羽地漁協)

日 時 : 平成 29 年 9 月 11 日 (月) (第 1 回 (夏期))  
 平成 29 年 12 月 11 日 (月) (第 2 回 (冬期))

場 所 : 済井出海域 (ポイント 1~4)

### 調査結果 :

- ・本年度調査では、喰み跡は確認されなかった。なお、ポイント 4 では、平成 27 年度の夏期調査で喰み跡が確認されている。



※藻場分布図：環境省「ジュゴンと藻場の広域的調査（平成 13 年度）」画像解析による。図上藻場が無い場所でも、実際の調査地点では藻場が発達している。

### 済井出海域のモニタリング調査地点

### 羽地漁協結果概要(平成 29 年度)

調査ポイント	第 1 回(夏期)		第 2 回(冬期)	
	平成 29 年 9 月 11 日(月)		平成 29 年 12 月 11 日(月)	
	喰み跡 (本)	喰み跡密集箇所 (箇所)	喰み跡 (本)	喰み跡密集箇所 (箇所)
1	0	0	0	0
2	0	0	0	0
3	0	0	0	0
4	0	0	0	0

※調査ポイント 4 は平成 25 年度第 2 回 (冬期) 調査から実施

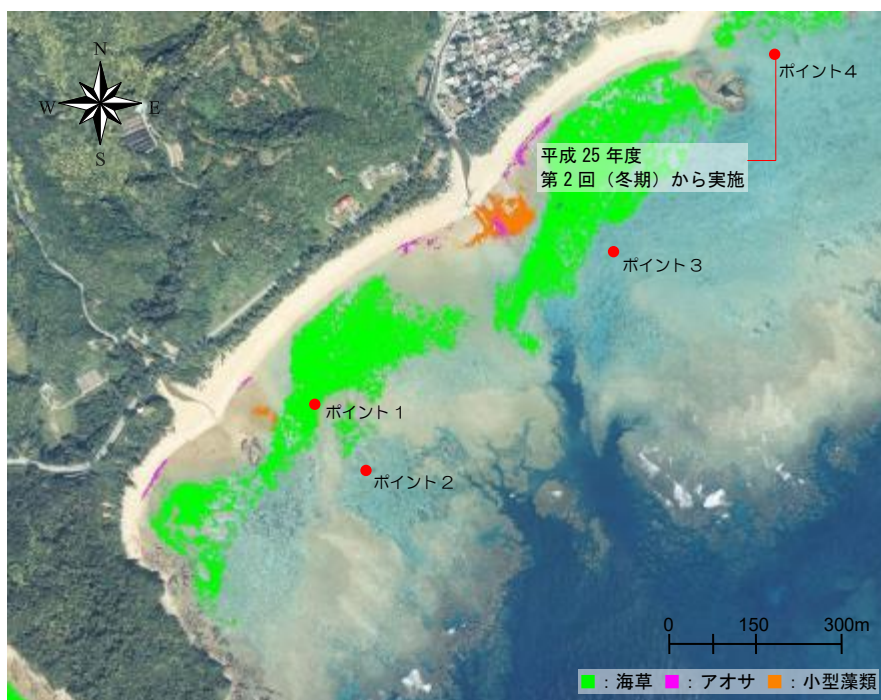
### ③ 喰み跡モニタリング調査の実施(名護漁協汀間支部)

日 時 : 平成 29 年 9 月 24 日 (日) (第 1 回 (夏期))  
 平成 29 年 12 月 10 日 (金) (第 2 回 (冬期))

場 所 : 嘉陽海域 (4 箇所。ポイント 1~4)

調査結果 :

- ・ポイント 3 を除く調査ポイントで喰み跡が確認され、餌場として継続した利用が確認された。
- ・嘉陽海域では餌場として継続した利用が確認された。



※藻場分布図：環境省「ジュゴンと藻場の広域的調査（平成 13 年度）」画像解析による。図上藻場が無い場所でも、実際の調査地点では藻場が発達している。

#### 嘉陽海域のモニタリング調査地点

#### 名護漁協汀間支部調査結果概要(平成 29 年度)

調査ポイント	第 1 回(夏期)		第 2 回(冬期)	
	平成 29 年 9 月 24 日(日)		平成 29 年 12 月 10 日(日)	
	喰み跡 (本)	喰み跡密集箇所 (箇所)	喰み跡 (本)	喰み跡密集箇所 (箇所)
1	13	5	24	1
2	2	0	52	9
3	0	0	0	0
4	62	2	0	0

※調査ポイント 4 は、平成 25 年度第 2 回 (冬期) から調査を実施。

## (2) ジュゴンと地域社会との共生に向けた取組

### 1) ジュゴン勉強会の実施

#### ① 座学勉強会(ジュゴンの生態と海草藻場等に関する解説)

日 時：平成 29 年 9 月 28 日 (木) 14:10～16:00 (座学)

場 所：名護市立小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」(音楽室)

参 加 者：屋我地ひるぎ学園生徒 (7 年生、8 年生、9 年生、合計 30 名)、沖縄県環境部  
自然保護課、名護市環境対策課、名護市屋我地支所、名護市済井出区、名護  
博物館、羽地漁協、屋我地エコツアーネット、北限の調査チーム・ザン

実施内容：

「海草(うみくさ)とジュゴン調査のはなし」 沖縄県環境科学センター 小澤宏之

「ジュゴンのはなし」 北限のジュゴン調査チーム・ザン 細川太郎

「沖縄の自然・動物の進化とジュゴンのはなし」 沖縄大学人文学部教授 盛口 満

#### ② 海草藻場の観察会(済井出地先)

日 時：平成 29 年 9 月 29 日 (金) 14:00～16:00 (海草観察会)

場 所：名護市済井出(屋我地島)地先

参 加 者：屋我地ひるぎ学園 8 年生 (8 名)、教員 (2 名)、羽地漁協 (警戒船、カヤック  
指導)



海草藻場観察会を実施した屋我地島済井出地先

### (3) 「ジュゴンに関する国際シンポジウム in 鳥羽」における情報収集

---

日 時：平成30年2月22日（木）及び23日（金）

場 所：鳥羽国際ホテル

主 催 者：国際ジュゴンシンポジウム実行委員会

（鳥羽水族館・三重大学大学院生物資源学研究科附属鯨類研究センター・京都大学フィールド科学教育研究センター）

参加研究者：

#### ○日本

- ・粕谷 俊雄 元帝京科学大学教授
- ・土屋 誠 琉球大学名誉教授
- ・加藤 秀弘 東京海洋大学大学院教授
- ・吉岡 基 三重大学大学院教授
- ・村山 司 東海大学海洋学部教授
- ・市川 光太郎 京都大学フィールド科学教育研究センター准教授
- ・細川 太郎 ジュゴンネットワーク沖縄事務局長
- ・古田 正美 元鳥羽水族館館長

#### ○オーストラリア

- ・ヘレン・マーシュ ジェームズクック大学環境科学部 教授
- ・ジャネット・ラニョン クイーンズランド大学 上級講師・研究者
- ・ドナ・クワン 国連環境 CMS Dugong MOU プログラムマネージャー

#### ○フィリピン

- ・アーネル・アンドリュウ・ヤプチンチャイ  
マリン・ワイルドウォッチ・オブ・ザ・フィリピン エグゼクティブディレクター

#### ○パラオ

- ・イムナン・ゴルブー パラオ国際サンゴ礁センター CEO

#### ○タイ

- ・コンキアット・キティワタナウォン  
プーケット海洋生態センター ディレクター

#### ○マレーシア

- ・ルイーザ・ポナンパラン マーセット研究所 議長兼共同創設者

#### ○ニューカレドニア

- ・リチャード・ファーマン ニューカレドニア ラグーン水族館館長